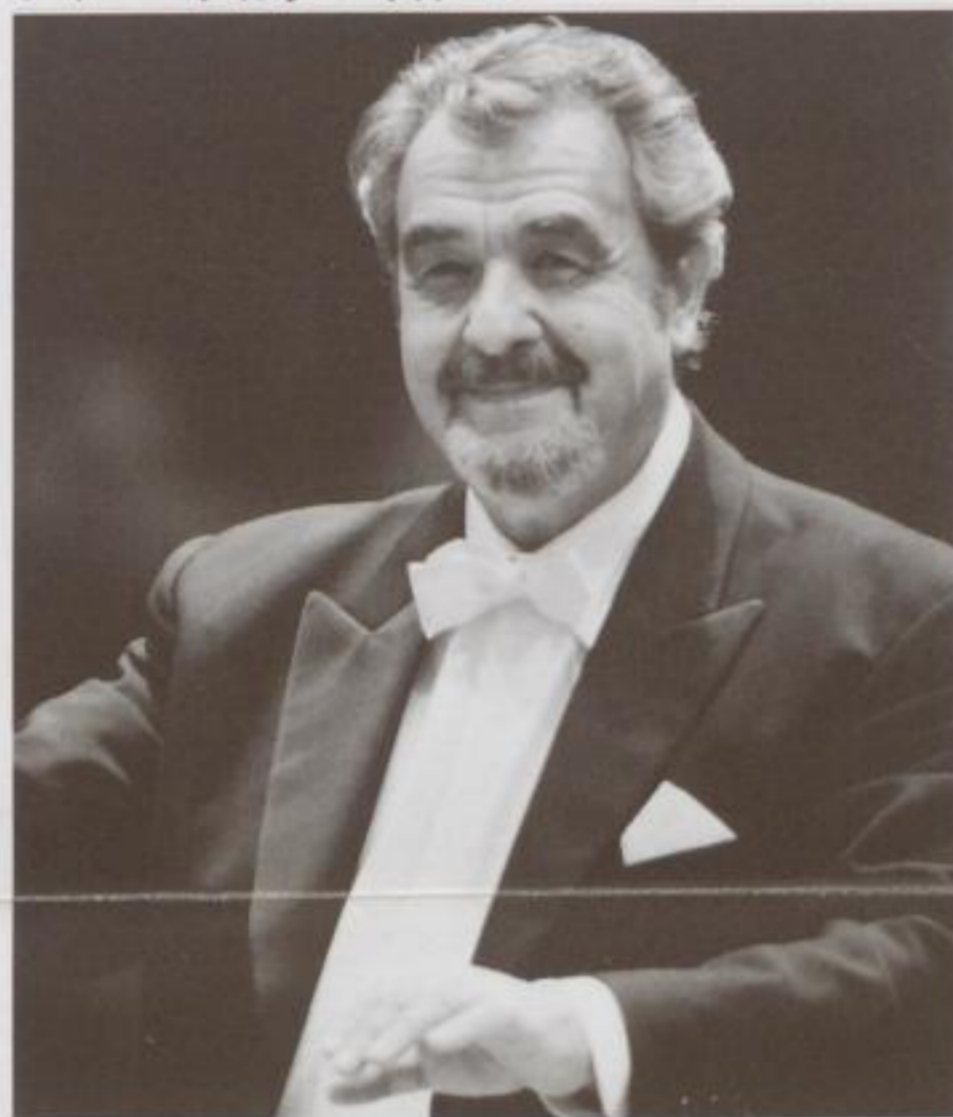


# Dresdner Philharmonie conducting Walter Weller

## ドレスデン フィルハーモニー 管弦楽団

ドイツ・オーストリア音楽の権威  
ウィーン出身の名匠ワルター・ウェラー



1939年、ウィーン生まれ。6歳から音楽を学び、ウィーン音楽院でヴァイオリンを学ぶ。

1956年、弱冠17歳でウィーン・フィルのメンバーとなり、さらに同年コンサート・マスターに就任する。同年、ウェラー弦楽四重奏団を結成。以後1971年までこの弦楽四重奏団は国際的な音楽祭やレコーディングなど幅広い活動を行う。当時の数多くの録音は今でも名盤としてCD化されファンの間で愛好されている。

同じくウィーン出身の名指揮者ヨーゼフ・クリップスの下で指揮を学び、1966年指揮者としてデビュー。

以降、ヨーロッパ各地で活躍。ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団やロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・スコティッシュ管弦楽団そしてロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団などの首席指揮者を歴任。

スコットランドでは50ポンド紙幣にウェラーのイメージが印刷されるといふ名誉を受けている。

ドイツ・オーストリア系の指揮者として現在最も幅広く活躍している巨匠の一人である。

DRESDNER  
PHILHARMONIE

創立130年!  
充実のアンサンブルを聴かせる  
ドイツの名門  
ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団



1870年に創立され、既に130年の歴史を誇るドイツの名門オーケストラ。

1871年のベテルスブルグ客演をはじめ、ヨーロッパ各国、1909年のアメリカ客演など早くから国外公演を積極的に行ってきた。また1888年に、チャイコフスキーが自らの指揮で交響曲第4番を、そして89年にはトヴォルザークが交響曲第5番を演奏したのを始め、ブラームス、ハンス・フォン・ビューロー、R.シュトラウス、ラフマニノフなどとも共演している。

第二次世界大戦のため一時解散を余儀なくされたが戦後再編成された。クルト・マズア、ギュンター・ヘルビヒらが音楽監督に就任し安定した実力を誇るようになった。ヘルベルト・ケーゲルの時代には多くの録音を残し高い評価を得た。ドイツ民主化後はイヨルグ・ペーター・ヴァイグレそして1994年にはミッシェル・ブラゾンが首席指揮者に迎えている。

ドイツらしい味わいの中に、ドレスデン独特の柔らかい響きと、同じドレスデンのシュターツカペレとは異なる新鮮さと現代感覚を兼ね備えた演奏は、世界中で高い評価を得ている。